

慶生に安價で交換のまゝ本糸を御用下さい

【刊夕日四月十】



寄書

外交上より
觀たる倫敦條約

(七) 山田耕三

按するに英國としては米國

の海軍が著しく英國の其れ

を凌かさる先も成るべく速

に日英兩國を戦はしめ米國

の困難なる戦争に苦悶懊惱

し、其海軍力の痛く損傷せ

る最後の時機に於て、米國

側に参戦し、以て米國をし

て氣息奄々の間に勝利を得

せしめ、戰勝の獲物は英國

自ら之を收め、以て世界の

霸權競争に於ける當面の對

手たる米國と之に次て等し

く弱權の競爭者として當然

現れるべき我國、少くも

極東に於ける苦手たる我國

とを一舉に打倒し、所謂最

少の力を以て、最大の成功

を收めるを以て最も得策と

すべし。從て英國としては

當然此策を遂行すべく、苟

も我國にして徒に日英同盟

再現の機運を待望せんか、

此間忽ち英國の支持を有す

る米國の大なる壓迫に遭遇

し起て戰はざるを得ざるに至るべし。果して然らば我

海軍に作戦用兵上の缺陷を

生せしむる倫敦條約は大阪

城の外濠を填埋せしめたる

茶臼山の條約と等しく、其

批准は韓信股潜りにあらず

して正に亡國への第一歩た

るべきなり。更に翻て米國

の立場より之を觀れば米國

が世界的霸權を掌握するに

障礙たるべきは固より日英

兩國なりと雖、英國は既に

老境に入りたる大國にして

之を人に譬ふれば齡五十歳

とせる者に比すべく米國は

而かも體力氣力漸く衰へん

とすべく殊に日本が太平洋

の海權を擁護するに缺陷あ

る場合を以て最も有利なり

か、或は此間に於て經濟的

絞首政策を用ひ、以て日本

を窒息致死せしむるを得策

する能はざるに至らしむる

に日本を打つて、再び擴頭

に先ち、而かも日本が壯年

と成りて力量旺盛の頂上に

達せざる間に於て、徹底的

に日本を打つて、再び擴頭

に日本を打つて、再び擴頭

する能はざるに至らしむる

くも自ら其老境に入らざる

に日本を打つて、再び擴頭

突如、郡山合同銀行休業

郡山橋本萬右衛門系の銀行である郡山合同銀行は兎角の噂あつた處本四日から三週間の豫定を以て休業を發表した

所得税調査員選舉の

即戦立心なり

所得税調査委員の選舉は愈

よ期日が切迫し機既に熟し

所長が切迫し機既に熟し
たるを見た石城政友部會は

幹部會を開き種々
對策を構する處あ

昨日午後二時から大村屋に
幹部會を開き種々

對策を構する處あ

昨日午後二時から大村屋に
幹部會を開き種々

對策を構する處あ

昨日午後二時から大村屋に
幹部會を開き種々

對策を構する處あ

昨日午後二時から大村屋に
幹部會を開き種々

對策を構する處あ

昨日午後二時から大村屋に
幹部會を開き種々

對策を構する處あ

昨日午後二時から大村屋に
幹部會を開き種々

青沼鉢太郎、榎田榮太郎
平松武、猪狩庄平、赤津
庄兵衛

の五氏に對し内意を質した
る處青沼氏は前後九年間此
の職に在つて責を果したる
故を以つて、又平松氏は病
氣治療の爲め在京中にて運
動意の如くならずとの

理由に依り辭意固
く交渉の餘地なき結果他の
三氏に向つて立候補を慇懃
せざるに赤津氏快諾と共に猪
狩氏又出馬の意を固め榎田
氏は坂本隆藏氏を押して考
慮中なるも今明日中に兩氏
何れかに決定を見るべく此
外新穎の候補者として物色
された加藤丈夫、柏原幸次
郎、山崎清三の三氏中加藤

承諾せず

民政派所得税調査委員候補
者は既報の如く三名を樹立

する事になつたが昨日同派
者も立候補を

所長は立候補を

常磐各炭礦の運賃値下げる
氏家代議士奔走

秋もいよいよ深くなりお
互すみ心地よい時候にな
りました。さて今回我國
漫畫界の泰斗として獨自
の境涯に斬然異彩を放た
れてゐる北澤樂天先生が
一世一代の仕事として試
みられた樂天全集が左記
の方法で一般愛好者各位
に頒たれることになりま
したが各位も御承知の通
じ度通行人車數調書相添
へ踏切附近の各區民の連
書をして右陳情候也

北澤樂天全集豫約趣意書

踏切切開に立候補は

五名を獲得すべく愈々戰端
開始の準備を整へる模様で

立候補は

阿部氏語る

踏切切開に立候補は

踏切切開に立候補は

北澤樂天全集豫約趣意書

前、飯野の四村である

が此の内飯野村は一票が

村長の伊藤浅之助氏であ

る爲め同村長は選舉人と投

票及び開票の立會人を兼

ねる事となり夫々の日當

が舞ひ込むので「どうだ

此の景氣は」と滅ツ切り

絶対にありません」と否

認した

承諾した旨を發表した爲

め本日午前八時阿部氏に尋

ねた處

「その交渉はありました

が自分は種々の事情で今

回は出ない積りなのです

から承諾等をした覚えは

あります」と否

と

柏原南氏の

結局政友派は定員七名の内

五名を獲得すべく愈々戰端

開始の準備を整へる模様で

ある

妙がらず外に左記

▽午前七時廿五分下り▽平

午前七時十三分下り午

前七時卅四分下り

右汽車通過の際は混雜名

状すべからず多數の通學

児童は自動車馬車の間に

挟まれ危険實に甚しく多

く最も最早や到底放棄するに

忍びず候條之れが適當な

施設として同踏切にガ

ード又は跨線橋の設備相

成様何卒至急御盡力相煩

し度通行人車數調書相添

へ踏切附近の各區民の連

書をして右陳情候也

踏切切開に立候補は



報隊氣天

晴れたり

今晩も明日も北

西の風雲つたり

んで葉の上にはひ出すとそ
こに一つのきれいな玉がの
つかつてゐる、それが日光
を受けて銀色に光り、虹が
うつゝて五色にきらめき、
又夜になつて月の光をうけ
て金色にかゞやくので、か
まきりは銀の玉だと喜び立
派な寶石だと喜び最後は金
の玉だと大喜び、かまきり
は「この立派な玉をこわし
てはならぬ、又他の者にぬ
すまれてはならない」とそ
の夜は眠らないで番をした
翌朝になつて朝風が、ソヨ
／＼吹いて芋の葉がゆれる
と大事な玉がコロ／＼ころ
がつて下に落ちた、かまき
りは驚いてすぐ下にとび下
りてさがしたがどうしても
玉が見つからなかつた、不
思議に思つてゐるところへ
み、すさんが顔を出したの
で、かまきりはてつきりみ
んだ。「玉を知つてゐるだら
う出しておくれ、かへして
おくれ」とたのむがみ、す
は知らぬといつてどうして
も出さないので、かまきり
はとう／＼怒つてみ、すを
一寸きざみにした。み、す
が泣き叫んでると、そこ
へなめくちのお医者が来て
その傷にねばい膏藥をつけ
て綱帶してくれたのでやが
て傷は癒つたがその痕かた
だけが輪のやうについて未
だに浪えないそれからみ、
すはかまきりを恐れて常に
土の中にかくれる様になつ
たこと、かまきりは今でも

なくした玉をさがしてゐる
一一。科學童話

◇油虫のお使ひ

普佛戰爭の當時、プロシ

ヤのブルラン將軍はフラン
ス兵の爲に捕虜となつて敵
勾をかい上へ上へとのば

つて糸を引きあげた、絹糸

をかへてはるゝ、パリま

で來て父を救ひ出さうとし

てその様子をたづね廻つた

その結果三〇メートルもあ

るエツフェル塔より一メー

トル足りないのみといふ高

い塔の上にとちこめられて

ゐることを知つてがつかり

した、スザンネは夜ニツソ

リとその塔の立つてゐる森

度まで番兵のために取調べ

をうけたがこれが名高い敵

國のブルラン將軍だと氣づ

くものは一人もなかつた

つて油虫をとりうまく番兵
の目をのがれ、塔の下で銀
の笛を吹き、油虫の頭にバ

タをぬりつけ脚に絹糸をつ
けて塔の頂上の窓に向つて

地類を始め友禪、小紋、御召等の最優秀品並に銘仙、

着尺モス、實用品を豊富に取揃へ最安値を以つてお提

供致します

◆御婚禮花嫁式服

松印・金百貳拾圓竹印・金八拾圓梅印・金五拾圓

正一貫目一、六〇一、八〇二、二〇

フトン縞五十五錢より裏地五十錢より

◆フトン縞とフトン綿大廉賣

井三超錦紗小紋

本塙模様銘仙

三圓八十錢

英ネコニコ大島七十五

白キヤラコ十

三圓二十錢

朱絹子十八

天十五

八十錢

十二指

門專

病林

毒梅

門專

病林

毒梅

門專

病林

毒梅

門專

病林

毒梅

市原醫院

平町田町(電話一一四番)

平出張所(電話一八七番)

福島毛・タ商會

宜しくお引立願上ます。

移轉廣告

平町、三丁目、平郵便局跡に移しました。

福島毛・タ商會

店服吳井三

番四八二・番八三話電

○品價特超井三	錦紗小紋	十二圓
袋足	本塙模様銘仙	三圓八十錢
女絹	英ネコニコ大島七十五	白キヤラコ十
各千足限り	三圓二十錢	三圓八十錢
	六十	八十八錢

町

平

三

話

電

入院隨時

内科、小兒科

外科一般、婦人科

市原卯太郎

陸郎

外、梅毒、淋毒市原三三男

内、小兒科

外科一般、婦人科

市原卯太郎

陆郎

外、梅毒、淋毒市原三三男

内、小兒科

